

「生見尾踏切」安全対策ニュース

～ 踏切の安全対策のため「こ線人道橋」を整備します ～ 発行：横浜市道路局

横浜市では、生見尾踏切の安全対策に関する情報提供を行うため、安全対策ニュースを発行しています。

安全対策に関する横浜市の考え方

横浜市では、生見尾踏切の安全対策について、平成 25 年に起きた痛ましい事故を二度と繰り返さないよう、踏切を安全に横断できる施設を**早期に整備することを最優先**に検討を進めてきました。その結果、**用地買収を行わず、踏切上部を利用して**、エレベーターと斜路付階段を併設した新たな跨線（こせん）人道橋を整備する計画を提案しています。

また、生見尾踏切については、

- ① 遮断時間や横断距離が長いため、高齢者等が渡り切るには相当な時間を必要とすること
- ② 踏切内は鉄道の構造上凹凸があり、高齢者等の転倒の危険性があること
- ③ 今後、高齢者の占める割合がさらに増えていくこと

などから、踏切は閉鎖すべきと考えています。

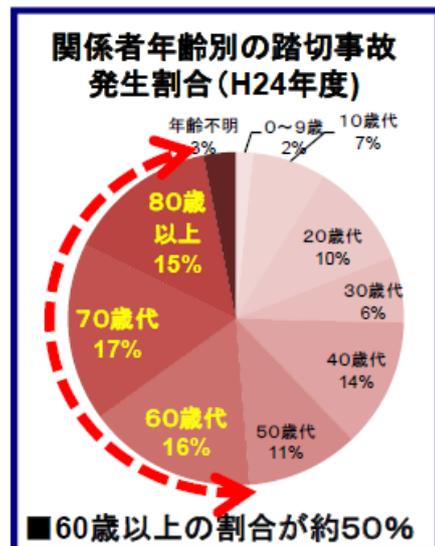
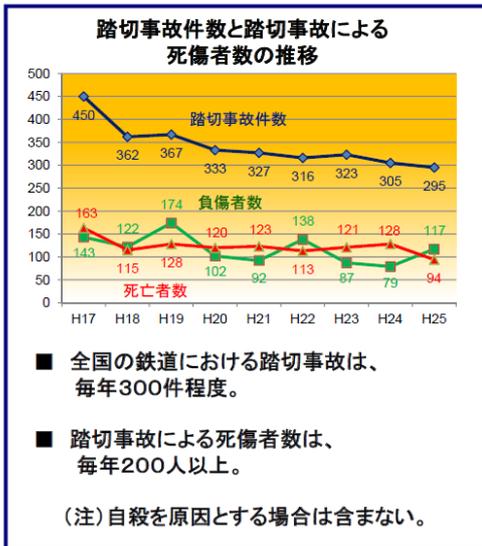


（設計を進める中で変更することがあります）

横浜市が提案している計画は、跨線人道橋の整備に併せ踏切を閉鎖することから、歩行者、自転車、ベビーカー利用者等の踏切を利用する全ての人が、安全に横断できる規模の人道橋としています。

踏切事故の現状

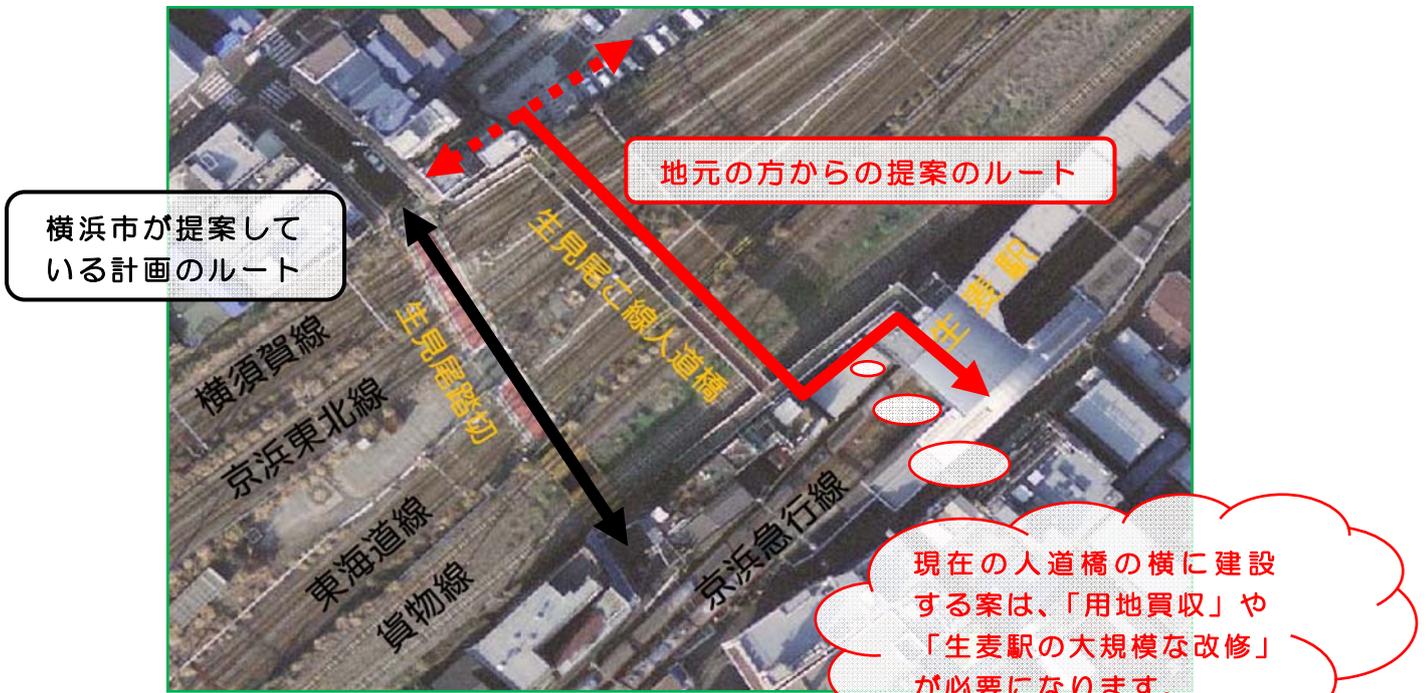
（国土交通省資料より）



・内閣府による人口推計では 65 歳以上の高齢化率は、2014 年は 26%でしたが、2025 年には 30.3%、2035 年には 33.4%になると予測しています。
（平成 27 年度版高齢社会白書より）

横浜市案と地元の方からの提案との比較

生見尾踏切の安全対策を進めるにあたり、これまで、周辺自治会等の皆様と意見交換を行ってきました。その中で、「踏切を残して安全対策を行ってほしい」との御意見や御提案をいただきました。いただいた御提案について検討し、横浜市の案と比較して説明を行いましたので御紹介します。



【比較表】

	横浜市が提案している計画	地元の方からの提案
設置場所	用地取得は行わず、踏切とJR用地内に人道橋を建設する	新たに用地を取得し、生麦駅を大規模に改修して人道橋を駅に接続する
幅員	6.0m	4.5m
事業費※1	100	200
工期	約2年間	用地取得後 約7年間
安全対策に関する主な考え方	<ul style="list-style-type: none"> 出来るだけ早く、新しい跨線人道橋を整備したい。 痛ましい事故を繰り返さないよう抜本対策※2を図る。 エレベーターは全ての踏切利用者が安全に渡れる規模とする。 踏切待ちが無く、いつでも往来が可能となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新しい跨線人道橋は、時間をかけても、踏切を残して整備して欲しい。 健常者は踏切を渡れる。 エレベーターは高齢者やベビーカー利用者が使える小さな規模でいい。 踏切廃止は地域の分断を招く。

※1 事業費については、横浜市が計画する案を100とした場合の比率による比較です。

※2 抜本対策は、踏切道の代替施設を建設し、踏切道そのものを廃止します。

御意見、御要望のある方は、下記連絡先にお問い合わせ願います。

横浜市道路局企画課鉄道交差調整担当 〒231-0017 横浜市中区港町 1-1

TEL: 045-671-2792 FAX: 045-651-6527 メール: do-tetsudou-umio@city.yokohama.lg.jp

お問い合わせ時間 9:00~17:00(土、日、祝日以外)

なお、この資料は「横浜市道路局企画課鉄道交差調整担当」のホームページでも閲覧できます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/doro/plan/rail-cross/20110530-pln-fumikiri5-index.html>